

7・27住民討論会

水源の里 まいばらへ

パネルディスカッションの第3のテーマはエネルギーの地産地消です。井戸弁護士が「自治体には3つの役割がある。

1つ、消費者としてエネルギーを大量に使う。2つ、事業主体として再生可能工

エネルギーの発電事業に関わる。3つ、政策主体として、新しい試みを補助金などで援助する。地方自治体として何が出来るか、3人のお考えをお聞きしたい」と迫ります。いよいよ熱を帯びてきます。



参加者より スローなエコライフを
住民討論会の開催ありがとうございます。住民の安全を最優先に考える、
子や孫の代まで住める土地を残す、
原発なくても電気は足りている、など心強い意見ありがとうございました。
スローなエコライフを推進していきたいです。（富江さん）

地産地消型の地域と 生活スタイルつくる

平尾道雄
5年前に、米原市は
「水源の里まいばら元
氣みらい条例」をつくつ
た。きっかけは京都府
の綾部市長が「私たち
自治体の人間が『限界
集落』問題を見て見ぬ
ふりをしている」と言つ
たことだ。同市長は

「本来の人間の生き方
自然との向き合いの方な
ど、『限界集落』にこ
そ価値がある」と「全
国水源の里協議会」を
つくられた。私も誘わ
れて一緒にやってきた
　旧伊吹町の北部8集
落を地域指定して5年
間頑張った。「未来を
つくりたい」と、若者
が文化・芸術活動をし
にきた。住民の数がど
んどん増えたわけでは

「田舎だから、少數だから、水ばかりだからダメ」から「水があつてよかつた。高齢者が多くて優しい。不便だが互いの絆やいたわりがある」へ。

この新しい動きの中で、小水力発電とか、森の木を切り出す木質バイオとかで新しいエネルギーをつくる。そのエネルギーでトラクターや軽トラを動かす。そういう農業が出来るなら、そこで人生のドラマをつくりたいと、日本中から若者がくるという話になっている。すでに、よそから来た小さな集団が耕作放棄地で自然栽培農法で米やヨモギを作っている。従来と違う感覚で自然

条例の期限は過ぎたが、今度は米原市全体が「水源の里」だ。びわ湖上流にある米原市は、水を大事にし、原発に頼らないクリーンなエネルギーをつくる町。自然との向き合いで、人が素晴らしい町。儲けだけでなく、自分たちで地産地消型の地域と生活スタイルをつくっていきたい。



水を大事にし
原発に頼らない町

贊沢な田舎で自然と 共にスローライフを

藤澤直広 日野町長



うちの町も、家庭のソーラー発電に補助金を出してや市街化区域の未利用地にソーラーを並べている。しかし「それは結構なこっちゃない」と素直には思えない。山を削ってパネルを並べるが雨水処理がされているのか。「今やっておくと儲かる」それだけでいいのか。エネルギーの循環を作るための深い議論が必要である。

「24時間休まない社会」を上ではよい所なんだと、今、見直されつつある。若い人を含め価値観が変わり「自然が豊かなところでスローライフでやっていこう」との流れが生まれている。

町で、空き家を斡旋しているが、貸してくれと言う

人が多い。若い人が「何か良い物件はないですか」と、役場を訪ねてくる。自然農法をやりたい人は、全国に沢山いる。町が「その人たちを支援すれば移ってきたよ」と、移ってき

た人が言う。自然と共生する人たちの生活を見て、地域の人たちが変わる。都会と同じように電気やガスを使つたてきたが、山に木が

あるなら活用しようと「新しい気づき」が生まれる。町長として、町全体の工能エネルギーの開発を支援し、暮らし全体が、もう少し自然と共にスローにやっていける地域をつくっていきたい。

太陽光の方が関電の 電気代より安くなる

村西俊雄 前愛荘町長
ドイツの「ベースロード

電源」は、原発でも化石燃料でもなく再生可能エネルギーだ。先日、立命館大のドイツ人の先生が「太陽光発電の単価は今の電力料金よりも安くなる」と言つた。

再生可能エネルギーは地域経済にも大きな効果がある。この5年間、愛荘町全體でソーラー発電に8億円使つた。そのうち町の補助が4000万円、残りは住民の皆さん自分が自分のお金で使つた。それが54万円、44万円と下がり、今、新聞廣告では20万円台だ。

ソーラー発電の買い取り価格は、当初の1キロワット38円

参加者より 市会議員がもっと来て脱原発を目指されているけれど、それは個人の考えであって、現実の市政・町政では、首長の方針としてはまだ難しいのかなと感じた。特に再生可能エネルギーの話題では歯切れが悪いと感じた。彦根市議会議員の姿も数名見られたが、勉強という点でも、もっと来て欲しいと思った。（柴田さん）



昨日、日本一暑い所が東近江市で38・8度。関西全体が暑かったと思うが、関電の電力使用率は92～93%だった。抑えている火力発電を稼働させれば、本来の使用率はもつと下がる。かなりの余裕があり、原発なしでも十分やっていける。

産業を起こしたことになる。関電は、太陽光発電から